

13

令和4年2月7日

瀬戸市議会議長 宮園伸一様

瀬戸市

(陳情)ごみ有料化計画の根拠である分析結果の再検討及び計画の見直しの  
お願ひ

## (陳情の趣旨)

瀬戸市民はモラルが低く尾張旭市や長久手市など近隣の市と比較してごみ減量化に熱心でないため、懲罰的に有料化することにより推進しようと工夫ばかりの進め方には瀬戸市民の一人として反対です。

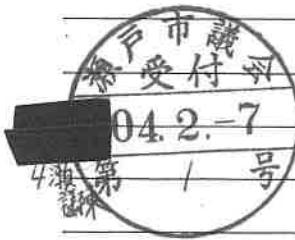
充分な調査により近隣の他市に比較して大幅に家庭系ごみが多いため理由を明らかにしては限り賛成には至りません。

## (陳情事項)

1. 説明会資料のなかの「瀬戸市家庭系ごみ1人1日あたりのごみ排出量(資源、物を除く)」に対する疑問へ、市民に対する充分な説明を要求します。

近隣の尾張旭市や長久手市に比べて大幅に多いのは不自然です。以下の調査を希望します。

- ① 重量ベースのデータに問題はないのか。
- ② 他市では計上されないものが計上されてないのか。
- ③ 市のPRが不十分で市民の意識が低いのか。
- ④ 瀬戸市の特殊事情によるものなのか。例えれば、瀬戸市では尾張旭市や長久手市と比べてコミュニティバスの路線や本数が圧倒的に少なく、アセタ瀬戸店や西友瀬戸店などは車がないければ行けません。当然週に1回1日間も買入もため食材のロスが多く発生します。一方尾張旭市などはほとんどのスーパーをカバーするようバス路線が設定されており多くの市民の買い物はまとめており食材のロスが発生しない環境にはなっています。



瀬戸市における地区別の一人あたりのごみ量が把握できることであれば、あればおおよその推測は可能か分かりかねつかず。

2/3

## 2. 資料分析の妥当性について

(1) 令和2年度の家庭系ごみの排出量の一部に、コロナ感染の拡大による家庭内で食事による食耗のロスや食べ残し、増加による影響が主なに、説明のままで載せている。

ある

(2) 近7年間の推移表において資源物が年々減少し、一方で家庭系ごみが人口減少にもかかわらず横ばいである。資源物が令和2年と大3年から11になつて、1kg/分家庭系ごみが増加したためようやく印象を与えていますが、実態は消費者の環境に対する意識が高まり、ビニール袋の容器から、紙、プラスチック、ペットボトルなどの容器に入った上で選択するようになり重量ベースで資源物が減る一方、家庭系ごみが増加する結果となつた。

### (計画への反対理由)

#### 1. 他の市町村のやリオを成功例ヒヒ採用するとの妥当性について

##### (1) 陳情書新図書館建設計画

本来高齢者有りの利用でない人たちの意見を優先してなくなり、図書館来館者にアンケートで実施したため利用できない人の声を反映できなかつた。

その結果、車がありと利用できぬよう立地条件のところばかり候補地となつた。

##### (2) 名古屋市東山動植物園「海洋ゾーン」建設計画

名古屋市における例がある。私が知ったのが計画発表後であり、反対するものが近畿で、発表後には凍結されて10年以上経過している。他山動物園のやリオもそのまま東山へ持つてようという計画であったため、とくに名古屋港水族館と競合するような施設を建設しようとつのは無理な計画であり、私の手筋か認められた形となつた。ちなみに反対は「が」(2013年)ではなく「東山植物園」往來金が活用されておらず全く認知されない状況で植物園の第二葉の有効活用を旋律し、どう多大なく前進し、来園者数の大増加に貢献している。

必 これが有効化に至るも他の市町村のやリオも事情の異なる限り多くは導入すべきだ。

3/3

## 2. 総合計画への整合性について

「往來たる街」は単なる市題材か  
あるいは行政サービスか、近隣市町村との最低レベル  
ではなく、市長地の駅周辺における複合施設の位置づけ  
「アーバンモビリティ」を廃止する前に市長自らが駅周辺の  
カットを開く出立のが、筋があったと考えます。